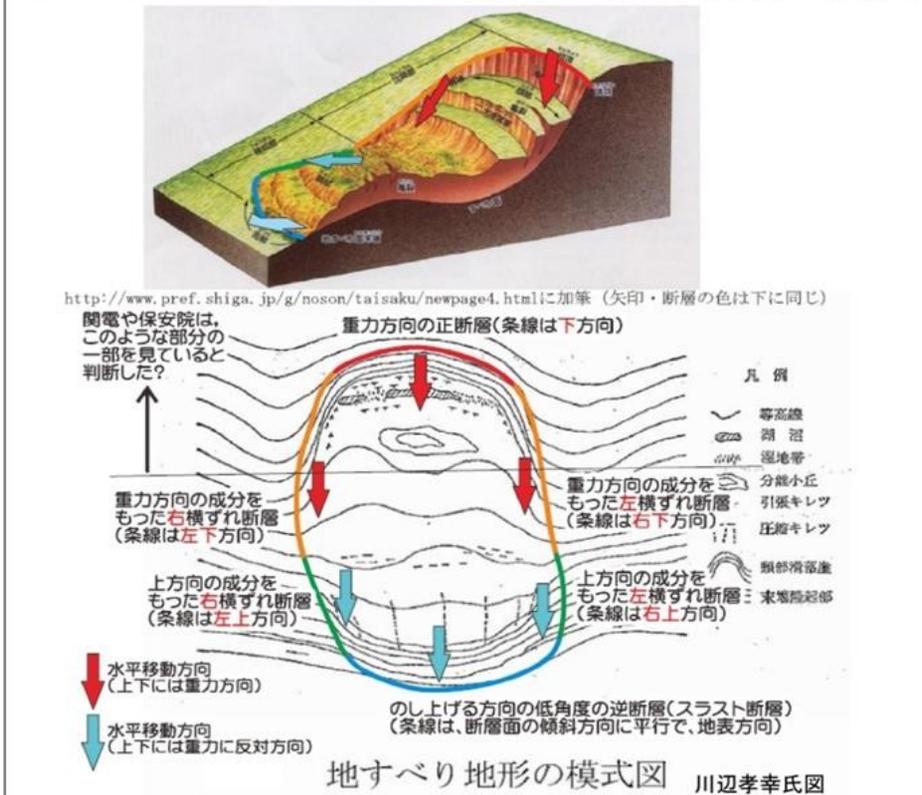


柏崎刈羽原発周辺の断層は厳正な科学的審査を 柏崎刈羽原発断層問題研究会が原子力規制委に申し入れ

地すべりの場合の断層の性質と擦痕(条線)の方向



柏崎刈羽原発断層問題研究会(大野隆一郎代表)は20日、原子力規制委員会に対して柏崎刈羽原発周辺の断層に関する厳正な科学的審査を求め、再度申し入れを行いました。

同研究会の申し入れは昨年1月に続いて2回目です。今回の申し入れでは、原子力規制委員会の指示に基づき、東京電力(株)が行った柏崎刈羽原子力発電所の敷地周辺の断層調査結果について分

析したうえで、①東電が刈羽村寺尾でトレンチ調査をしたA断層を荒浜砂丘団地研究グループが22年前(1993)に報告した断層と同一の断層であると断定しているが、それは別のものである可能性があります。②A断層を含む寺尾地元の断層群は従前と同様に地すべり性断層であるとしているが、この断層は地すべりとは大きく矛盾する問題をかかえているなど、7点にわたり問題点を指摘しています。(右上の画像は申し入れ書に記載されたものです)

東京電力(株)の調査結果については、すでに第201回審査会合や現地調査の際に、石渡明規制委員や審査チームの方々から疑問が呈されてもいる(申し入れ書)とあります。同研究会では、

こうした疑問や問題点を無視されて進められる可能性が高いことから、再度、厳正な科学的審査を求めたものです。

柏崎刈羽原発の地元で廃炉を訴える候補を応援に

柏崎刈羽原発の地元の柏崎市議選で、原発を廃炉にと訴えている日本共産党の持田繁義、五位野和夫候補にはぜひ勝ってほしいと応援に行ってきました。

21日は五位野候補の応援でした。五位野候補は、「原発は再稼動しても数年後には使用済み核燃料プールのがいっぱいになり、止めなければならなくなる。使用済み核燃料の処理はいまの技術ではできない」「原発は廃炉にするに



【カキドオシ】シソ科の多年草。漢字で「垣通し」と書きます。4月から5月にかけて薄い紫色の花を咲かせます。花は平地でも山間部でも見ることが出来ます。写真は吉川区尾神にて撮影しました。

山菜料理を楽しむ政治と暮らしを語る会

恒例の「山菜料理を楽しむ、政治と暮らしを語る会」を今年も開催します。ぜひ誘いあってご参加ください！申し込みは橋爪法一は日本共産党議員団の議員にお願いします。

日時：5月3日(日) 午後2時から4時まで

場所：吉川多目的集会場(原之町、吉川体育館脇)

参加費：一人当たり1000円。飲み物、料理持ち込み歓迎

※お酒を飲まれる方は車での参加はしないでください。

でも、何十年も廃炉作業がつづき、仕事も雇用も確保できない。地域の特産を活かした仕事を起こし、原発に頼らずに地域経済の活性化を図ることが大事」と訴えていました。反応は上々でした。

はしづめ法一の活動レポート

No.1705 2015.4.26
発行編集 日本共産党前上越市議 橋爪のりかず
Tel 025-548-3628
通じないときは 090-5392-1961
E-mail hasiznyg@ruby.ocn.ne.jp
URL http://www.hose1.jp/

ブログ「ホーセの見え方」はこちら

橋爪法一 検索

選挙が終わって数日後の夜のことでした。居間のコタツに入ってパソコンの操作に集中していたら、私の背中に半纏（はんでん）をかけてくれる者がいました。誰かと思っ

て振り返ると、母です。私は半纏を持っていませんので、母が私に着せようとしたものは母がふだん着用している赤と青の混じった格子模様のついた半纏です。背中に寒さを感じていなかった私は、一瞬、「どうしたのか」と思いました。

この夜、母の体感した温度が私と違って低かったのかどうかはわかりません。私は意識していなかったのですが、ひよっとしたら、パソコンに向かう私の姿勢のどこかに寒さを感じさせるようなところがあったのかも知れません。

私は母がかけてくれた半纏を着ながら、この夜、原稿書きを続けました。原稿の締め切りばかりを意識してパソコンに向かっていましたので、母がどんな思いで私に半纏を着せようとしていたのかまで深く考えることはありませんでした。

ところが、母が私に半纏をかけてくれたのは、この夜だけではありませんでした。数日後にも、もう一回あったのです。寒さの程度は最初のとおりです。このときはコタツの近くに長女もいて、母が半纏を私にかけようとして、「ばあちゃん、いいんだよ」と、さとすように声をかけていました。

今年四月に県議会議員の選挙がありました。九日間の選挙期間中、母はデイサービスへ行った日をおのぞき、選挙事務所となっていたわが家にずっといました。九一歳にもなっているのです。お茶を出したり、お客さんの接待などはあまりせず、コタツに入っ

じっとしていることが多かったようです。それでも気がつかけていたんでしようね、木曜日の朝だったでしょうか、母が具合が悪くしたのは。この日、母はめまいがしたらしく、まともに立つことができなくなり

ました。木曜日でしたので、本来なら、朝早くから支度をして、デイサービスの迎えの車を待つはずでした。この日、母は自分の寢床に入りっぱなしとなりました。何度か、母の額（ひたい）に私の額をつけて、「大丈夫かね」と声をかけると、「うん。でも起きらんねがど」と

言っていました。額で感じた母の体温に異常はありませんでしたが、顔色を見ると、何となく白っぽく感じられます。そんななかでも、母は心配をかけて申し訳ないと思っ

いたようです。これまでも母は立っていられなくなり、動けなくなることが何度かあります。吐き

気が止まらないなど状態が極端に悪いときは救急車を呼んだこともありましたが、たいがいは病院へ行って点滴してもらったり、家でゆっくり寝ていることで回復しました。今回も昼間、布団に入って寝ているだけで治り、ホッとしましたが、正直言って、しばらくは自分の体のことを何よりも大切にしてほしいと思っていました。こんなことがあったものだから、自分の半纏を私にかけてくれるという今回の母の行為が強く印象に残ることになりました。母の目には私が寒そうにしていると見えただけなのかも知れません。でも、私はそれだけで私はいくつになっても子どもです。初めて落選した自分の子どものことが心配で

希望館でのお花見のつどいに参加

県議選が終わって1週間後の19日、上野公悦市議後援会行事、「お花見のつどい」に参加してきました。選挙戦でお世話になったたくさんの人たちから、「残念だったね。ご苦労さん」とねぎらいの言葉をかけてい

ただきました。つどいの冒頭、私からは選挙戦での感想やお礼の言葉をのべさせてもらいました。選挙戦のなかで「外国で戦争する国づくり」への批判や原発再稼働問題などでの私の訴えには大きな共感が寄せられたことや、選挙戦で勝つためにはまだまだ力不足であったことなどを話させてもらいました。

上野市議は最近の議会の動きについて、談合問題、(仮称)厚生産業会館、新水族博物館問題に絞ってコンパクトに報告しました。今後の市議会での頑張りに期待したいところです。

つどいのメインである講演、今回の講師は馬場秀幸弁護士です。「安倍政権と戦争立法」と題して、昨年7月の集団的自衛権行使容認の閣議決定で何がどう変えられたのかについて詳しく語っていただきました。「専守防衛」から戦争国家への転換、



後方支援の場の拡大、多国籍軍への参加、PKOの武器使用基準の大幅な緩和などについて学び、改めて今回の戦争立法への動きの危険性を認識しました。

懇親会では大勢の人と話がはずみ、美味しい料理を食べている時間がないほどでした。

上越地域各消防署における空間放射線量測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

	4月15日(水)	4月22日(水)
上越南消防署	0.030	0.036
上越北消防署	0.043	0.053
新井消防署	0.043	0.040
頸北消防署	0.053	0.056
頸南消防署	0.047	0.047
東頸消防署	0.047	0.053
高士分遣所	0.047	0.047
名立分遣所	0.050	0.053

選挙が終わって数日後の夜のことでした。居間のコタツに入ってパソコンの操作に集中していたら、私の背中に半纏（はんでん）をかけてくれる者がいました。誰かと思っ

て振り返ると、母です。私は半纏を持っていませんので、母が私に着せようとしたものは母がふだん着用している赤と青の混じった格子模様のついた半纏です。背中に寒さを感じていなかった私は、一瞬、「どうしたのか」と思いました。

この夜、母の体感した温度が私と違って低かったのかどうかはわかりません。私は意識していなかったのですが、ひよっとしたら、パソコンに向かう私の姿勢のどこかに寒さを感じさせるようなところがあったのかも知れません。

私は母がかけてくれた半纏を着ながら、この夜、原稿書きを続けました。原稿の締め切りばかりを意識してパソコンに向かっていましたので、母がどんな思いで私に半纏を着せようとしていたのかまで深く考えることはありませんでした。

ところが、母が私に半纏をかけてくれたのは、この夜だけではありませんでした。数日後にも、もう一回あったのです。寒さの程度は最初のとおり同じです。このときはコタツの近くに長女もいて、母が半纏を私にかけようとして、「ばあちゃん、いいんだよ」と、さとすように声をかけていました。

今年四月に県議会議員の選挙がありました。九日間の選挙期間中、母はデイサービスへ行った日をおのぞき、選挙事務所となっていたわが家にずっといました。九一歳にもなっているのです。お茶を出したり、お客さんの接待などはあまりせず、コタツに入っ

じっとしていることが多かったようです。それでも気がつかっていたんでしょね、木曜日の朝だったでしょうか、母が具合が悪くしたのは。この日、母はめまいがしたらしく、まともに立つことができなくなり

ました。木曜日でしたので、本来なら、朝早くから支度をして、デイサービスの迎えの車を待つはずでした。この日、母は自分の寢床に入りっぱなしとなりました。何度か、母の額（ひたい）に私の額をつけて、「大丈夫かね」と声をかけると、「うん。でも起きらんねがど」と

言っていました。額で感じた母の体温に異常はありませんでしたが、顔色を見ると、何となく白っぽく感じられます。そんななかでも、母は心配をかけて申し訳ないと思っ

いたようです。これまでも母は立っていられなくなり、動けなくなることが何度かあります。吐き

気が止まらないなど状態が極端に悪いときは救急車を呼んだこともありましたが、たいがいは病院へ行って点滴してもらったり、家でゆっくり寝ていることで回復しました。今回も昼間、布団に入って寝ているだけで治り、ホッとしましたが、正直言って、しばらくは自分の体のことを何よりも大切にしてほしいと思っていました。こんなことがあったもの

ですから、自分の半纏を私にかけてくれるという今回の母の行為が強く印象に残ることになりました。母の目には私が寒そうにしていると見えただけなのかも知れません。でも、私

はそれだけで私はいくつになっても子どもです。初めて落選した自分の子どものことが心配で

希望館でのお花見のつどいに参加

県議選が終わって19日、上野公悦市議後援会行事、「お花見のつどい」に参加してきました。お世話になったたくさんの人たちから、「残念だったね。ご苦労さん」とねぎらいの言葉をかけていただきました。

つどいの冒頭、私からは選挙戦での感想やお礼の言葉をのべさせてもらいました(写真)。選挙戦のなかで「外国で戦争する国づくり」への批判や原発再稼働問題などでの私の訴えには大きな共感が寄せられたこと

や、選挙戦で勝つためにはまだまだ力不足であったことなどを話させてもらいました。

上野市議は最近の議会の動きについて、談合問題、(仮称)厚生産業会館、新水族博物館問題に絞ってコンパクトに報告しました。今後の市議会での頑張り

に期待したいところです。つどいのメインである講演、今回の講師は馬場秀幸弁護士です。「安倍政権と戦争立法」と題して、昨年7月の集団的自衛権行使容認の閣議決定で何がどう変えられたのかについて詳しく語っていただきました。「専守防衛」から戦争国家への転換、後方支援の場の拡大、多国籍軍



への参加、PKOの武器使用基準の大幅な緩和などについて学び、改めて今回の戦争立法への動きの危険性を認識しました。

懇親会では大勢の人と話がはずみ、美味しい料理を食べている時間がないほどでした。



残雪があるなか苗代作りが始まっています。大島区棚岡から中野へ行く途中、17日撮影。

上越地域各消防署における空間放射線量測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと

	4月15日(水)	4月22日(水)
上越南消防署	0.030	0.036
上越北消防署	0.043	0.053
新井消防署	0.043	0.040
頸北消防署	0.053	0.056
頸南消防署	0.047	0.047
東頸消防署	0.047	0.053
高士分遣所	0.047	0.047
名立分遣所	0.050	0.053